

# 白頭山一帯の近世韓国地図仮製版本の地形図に関して

南 榮佑（高麗大）・李 虎相（筑波大・院）

## 1. はじめに

最近、お茶の水女子大学にある外邦図の目録から白頭山一帯の5万分の1の地形図が10枚発見された。この10枚の地形図は、北朝鮮と中国の国境地域である豆満江という川の南側地域の地図である。これらは朝鮮総督府の臨時土地調査局が製作した地形図の一部であり、一般地形図の性格を持っているものである。

この10枚の地形図は、すでに韓国でもその存在を知られており、民需用の地図を軍需用として提供するために、既存の地形測量によって製作した原図を

仮製本したものである。ゆえにこの地形図は、日本軍の間諜隊が隠密で迅速に測量した迅速目測図である略図よりも後に製作された地形図であると考えられ、三角測量によって作られたものである。また本地形図の測量年度は大正5年と注記されているが、これは軍用秘図である略図が最後に印刷された時期にあたることから、朝鮮略図とは関係がないと思われる。

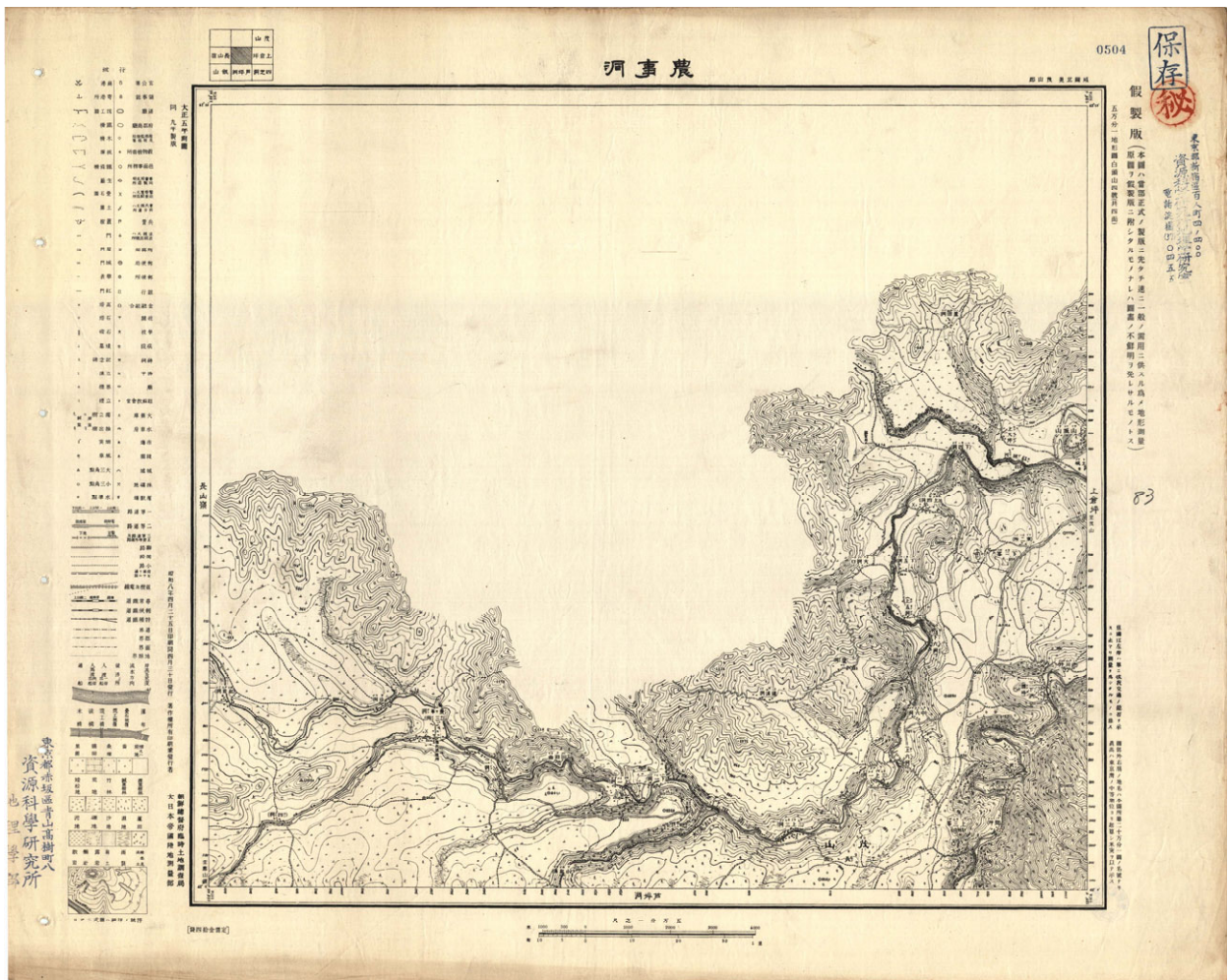


図1 「農事洞」5万分1地形図白頭山4号（仮製版）  
（大正5年測図・大正9年製版、お茶の水女子大学地理学教室蔵）

## 2. 測量および製版年度

この10枚の地図の測量年度は、すべて大正5年と6年である。これは韓日合併（明治43年）が行われた後で、すでに朝鮮総督府が設置されており、したがってこれらの地図の著作権も参謀本部の陸地測量部ではなく、朝鮮総督部にこの地図の著作権があった。さらに、この時期は朝鮮総督部によって韓半島（朝鮮半島）の土地調査事業も行われた。これは参謀本部の陸地測量部が朝鮮略図を隠密で測量した状況と朝鮮総督部が地形図を作った状況とは全く違ったことを意味する。

これらの製版時期は大正8年(1919年)と大正9年(1920年)が大部分であり、「四芝洞 サジドン」と「上倉坪 サンチャンピョン」の地形図は、製版年度が不明である。そのうち、四芝洞の地図の場合は昭和13年(1938年)に修正された測量を適用し、上倉坪は大正9年に製版されたものと推定される。

これらの10枚の地形図のうち、四芝洞の地図を除いた9枚の地形図は、すべて昭和8年(1933年)に発行されている。また昭和15年(1940年)に発行された四芝洞は正式製版であるが、残り9枚はすべて仮製版本として発行された。

## 3. 地形図の性格

本地形図の性格は、地図の右側上端に押されている青色の「保存」と赤色の「秘」という印章から推測することができる。すなわち、陸地測量部(1921)の『陸地測量沿革誌』によると、日本政府は1910年に地形図を保存用と公開用で区分して臨時に公開した事があり、「秘」はその時に捺印したものと推定される。

それは「農事洞 ノンサドン」の地形図を推定の根拠とする。農事洞の地図の場合、測量年度は等しいが、発行時期は今回発見された昭和8年のもののほかに大正15年に発行されたものも存在する。このうち、大正15年の地形図には「秘」が押されており、昭和8年のものは「秘」と「保存用」がともに押されている。このような事実から「保存用」の印章が押されたのは、両年度の間と考えられる。

そして、この10枚の地図が秘密になることは、この地域の軍事的意味と関係があると思われる。この

地域は、朝鮮独立軍と日本軍間の軍事的衝突が多かった地域である。したがって、最初民需用として地図を製作したが、軍事的に重要な地域の地形図は、「秘」が押されたと推定される。

「保存用」の捺印を行ったことは、当時の東京・新宿区にあった資源科学研究所の地理学研究室、あるいは赤坂区にあった資源科学研究所の地理学部という二つの機関のうちのいずれかであると考えられる。そして、大正15年に発行された農事洞の地形図は、お茶の水女子大学の前身、東京女子高等師範学校の地理学室で保管されていたものである。一方、朝鮮略図の場合は、地形図の右側上端に「軍事機密」または「略図」と捺印されたものおよび何も表示されていないものの三つの種類がある。

また本地形図は、地図の定価が印刷されていることから、販売用であったと推定される。一方、軍用秘図である略図の場合、販売用ではないために定価が策定されていないだけでなく、地形図の下端に縮尺がメートル・朝鮮里・日本里の三つの種類が併記されている。

5万分の1の縮尺の韓国地形図は、明治期・大正期・昭和期の3次にわたって発行されたが、今回発見された10枚の地形図は、そのうち第3次の地形図だといえる。これまでに明らかにされているように、第1次の地形図である朝鮮略図は、明治27年(1894年)から明治39年(1906年)の間に測量され、第2次の地形図は大正3年(1914年)に測量を開始し、大正7年(1918年)に発行が完了された。なお、第3次の地形図は昭和の初期に何回かにわたって修正作業が行われており、図葉別の発行年度を把握することはできなかった。

軍用秘図である朝鮮略図は、日本軍の間諜隊が隠密で迅速に測量したものであるため、正確さでは劣っているが、第3次の地形図は朝鮮総督部によって何回も修正作業が行われたものなので、その正確さは高いといえる。しかし、1980年代まで、韓国では、日本帝国が1917年を前後として製作した5万の1の地形図を韓国の最初の近代的な地図とされてきた。この地図が実は第3次の地形図であり、すでに韓国でもその地図については知られてきた（南榮佑，1996）。

#### 4. むすび

お茶の水女子大学の外邦図の目録から発見された10枚の白頭山一帯の地形図は、迅速目測図である略図が製作された以後の地図であり、朝鮮略図とは関係がないと考えられる。これは地図の測度年度、地図の右側上端に押されている「保存」と「秘」という印章、地図の定価が印刷されていることなどの事実から判断することができる。

つまり、今回のお茶の水女子大学の外邦図の目録

から発見された10枚の地形図は、韓日合併以後に発行された第3次の地形図の計722枚中の一部だといえる。

#### 文献

景仁文化社編(1990) 近世韓国五萬分之一地形圖. 景仁文化社.

南榮佑(1996) 舊韓末 韓半島 地形図. 外邦図研究ニューズレター、4、89-108.

南榮佑(1997) 舊韓末韓半島地形圖. 成地文化社.

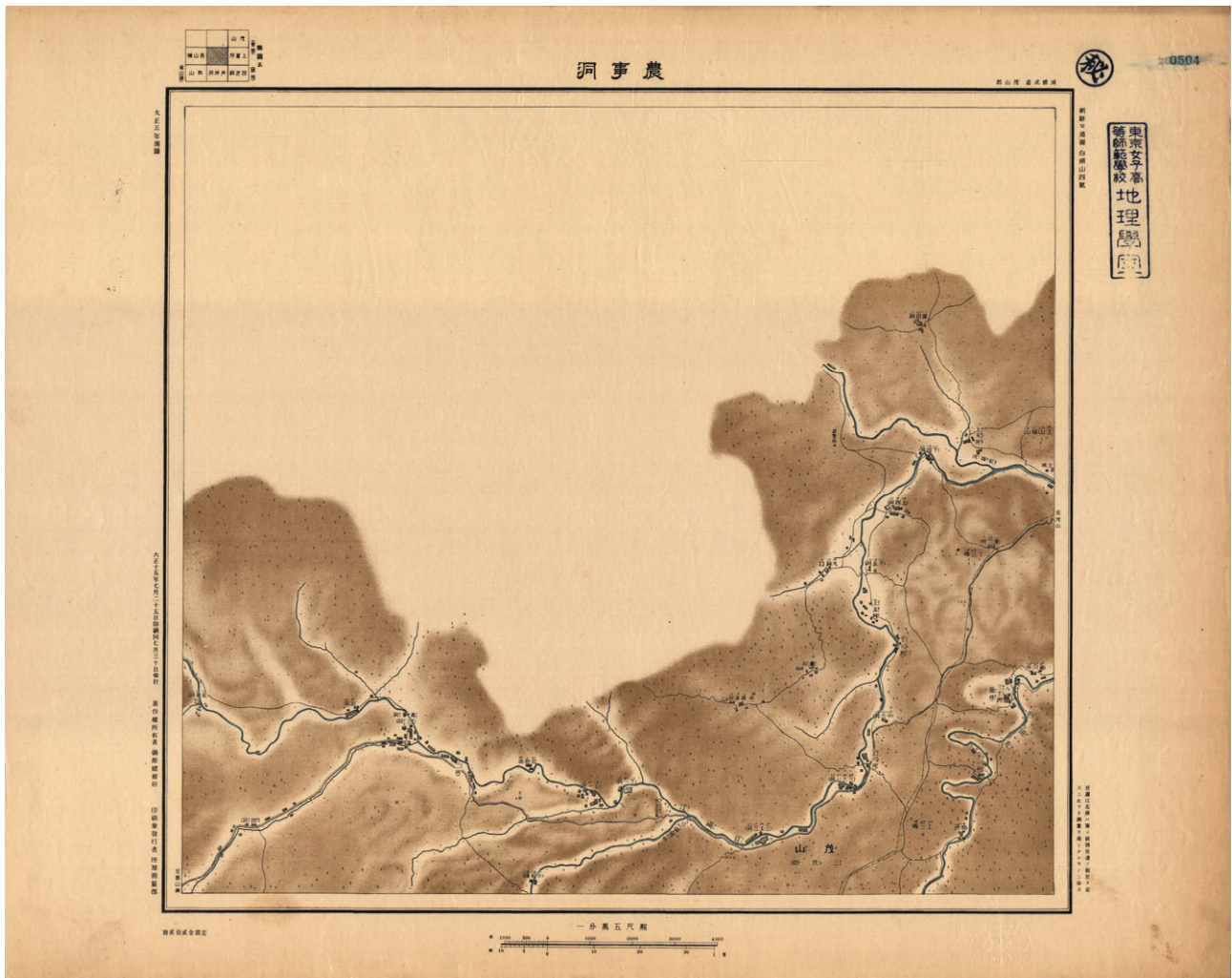


図2 「農事洞」朝鮮交通図白頭山4号

(5万分1、大正5年測図・大正15年印刷・発行、お茶の水女子大学地理学教室蔵)